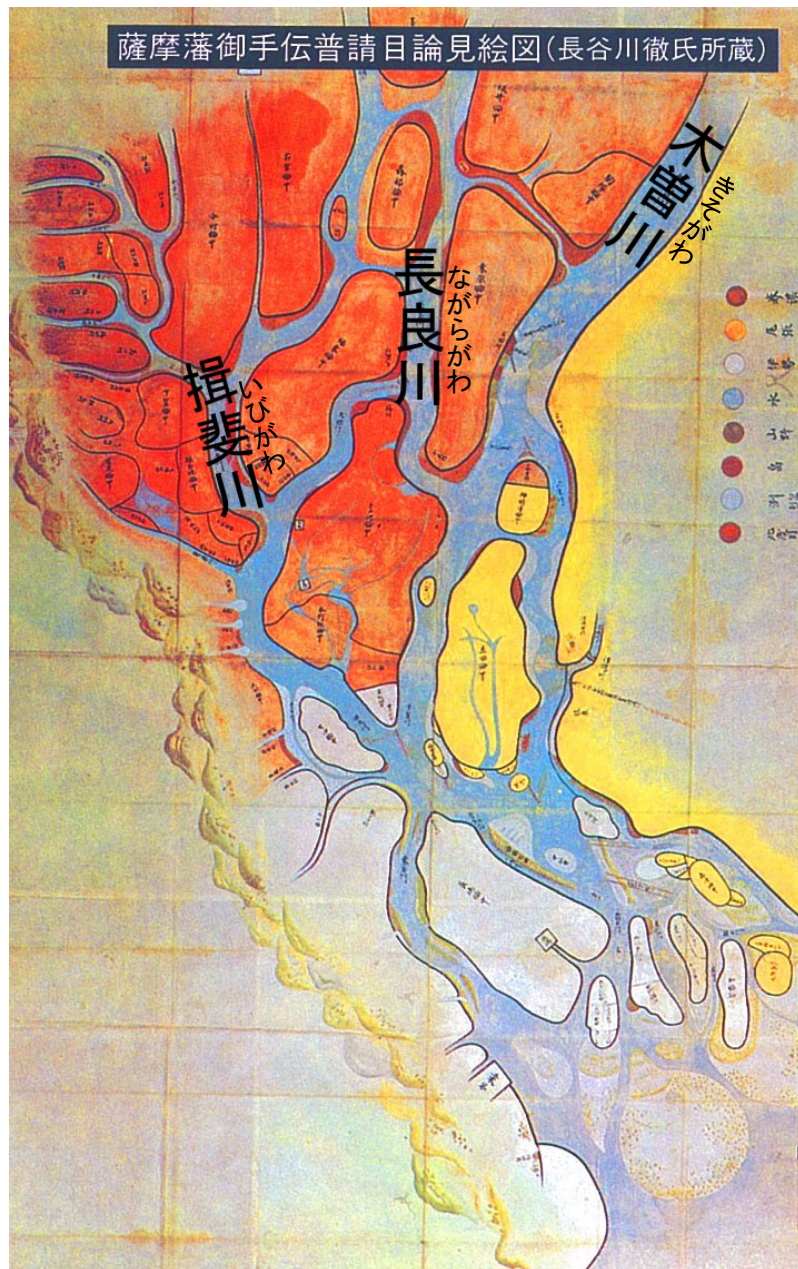






工事の陳情(国へのお願い)

資料3

洪水に苦しんでいた人々は、木曽三川の工事のお願いを出しました。

美濃の国の村々は、毎年、水による被害がふえて、今では低い土地では作物を作ることができなくなっています。

良い土地の村々でも毎年、水の被害を受け、年によっては作物がまったくとれなかったり、半分しかとれなかったりしています。

そのため農業を続けていくのがむずかしくなっています。そのため、土地をすてて、出ていってしまうものもあります。

今回、村々が集まり、水の被害がなくなり、水の流れも良くなり、大垣から三重県までの村がもとのすがたに立ち帰り、よい土地となりますよう、工事のお願いを申し上げます。

だいこうじ ほうれきちすい
大工事だった宝暦治水

資料4

宝暦治水の工事はばく大なお金や材料が必要な大工事でした。

もくざい まん ほん
木材…12万743本
ごりんぼく
御林木…5816本

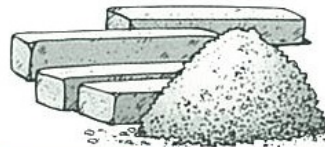


からたけ
唐竹…172万8709本
そだ たば
粗朶…700束
えだ たば
(木の枝を束にしたもの)



+

せきざい つぼ
石材…4万1724坪
(約240,000m³)
じゃりど
砂利土…20万3403坪
(約1,200,000m³)



とう ふさ
籐…1万501房
からだわら びょう
空俵…16万2870俵
なわ
縄…5万5404房



ひ やく まんりょう
工事費 約40万両



こめ まんびょう
米 160万俵



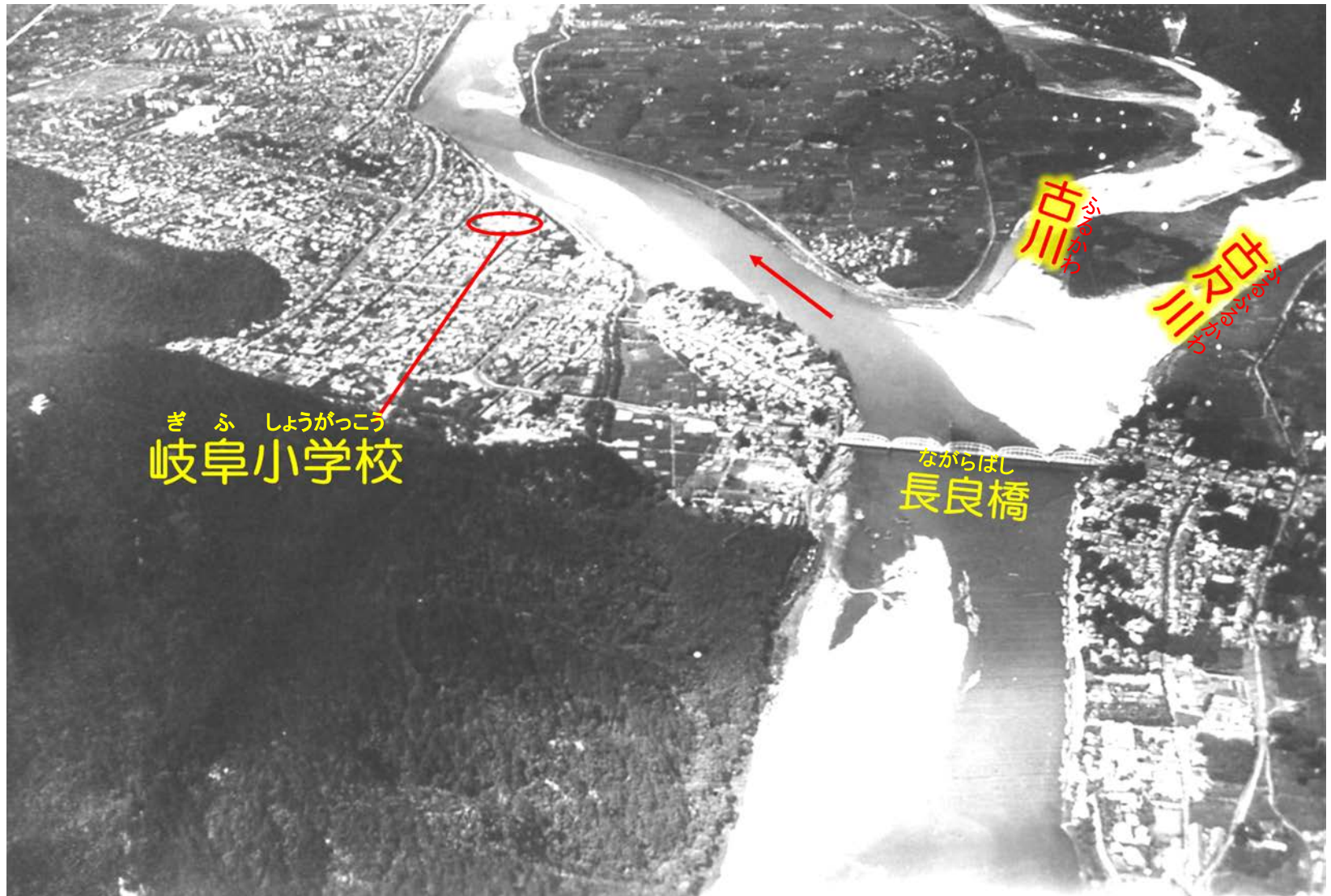
まんりょう いま
40万両とは今の
お金で約300億円
にもなります。

宝暦治水は宝暦^{ねん}4年～5年
(1754年～1755年)、
^{やく}約^{ねんはん}1年半^{じかん}の時間をかけて
^{おこな}行われました。



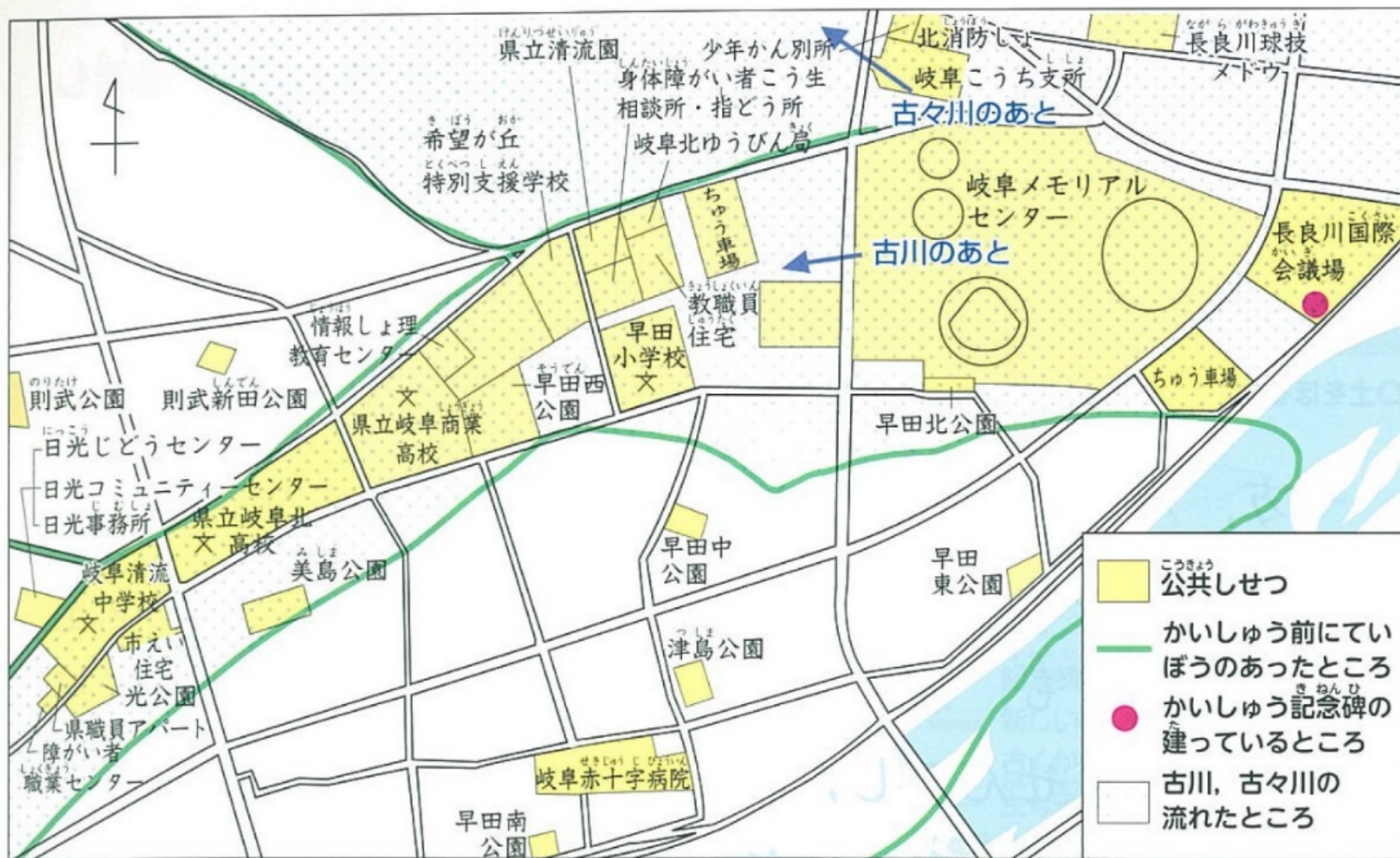


かいしゅうこうじ (しょうわしよき) より^{まえ}の長良川
改修工事（昭和初期）より前の長良川



かわ ち
川のあと地に建てられたしせつ

資料8



△川のあと地に建てられた公共しせつ

2014 (平成26) 年4月げんざい